

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (毎月壹圓十五日發行)

# 阿武郡報

第二十號

大正七年三月十四日印刷  
大正七年三月十五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所  
山口縣阿武郡萩町  
第二千二百六番屋敷  
印刷所 株式會社萩響海館



## ◎ 山縣老公の書簡

大正六年十月十四日山縣老公爵より林前本縣知事に寄せられたる書簡は現下世界の趨勢を透視し我帝國の前途を憂慮せられたるものにして言々至誠に發し句々肺腑を貫く讀者感奮興起せざるものあらざるなし茲に之れを轉載して郡下青年激動の資に供す

謹啓 時下益々御清壯慶賀此事に存候陳者先般田中參謀次長貴管下地方へ旅行相成候由にて過日面會の節種々其の近情并に貴下御盡瘁の模様をも承及候殊に青年團に關しても不一方御配意の趣老生に於ても乍蔭喜居候次第にて尙此上共一層の御盡力を希望致候申迄も無之今次の歐洲大戰終了の後は全世界に亘り精神上物質上非常なる變化を來し我帝國に於ても直接間接に其の影響を被るべきは明白の事に有之右に就ても將來帝國を擔ひて立つべき青年には確乎たる決心と覺悟とを要すべく今日より豫め指導鍛鍊するの要は今更多言を要す間敷候

今次大戰の原因は種々可有之候得共要するに國民民族の競争の結果に外ならず而して此の競争が今次の大戦に依り中歐の天地に於て解決を告ぐると否とに拘らず次に起るべき競争は必ず東亞の地を中心と致すべきは避く可からざるに至る情勢と被存候尙之と想像するに其の競争は

政治上經濟上種々の形式を以て顯はれ遂には勢の赴く處  
 此所(四字を省略す)ふる迄に立至るものと覺悟せざる可  
 からざる義と存候幸に今次の大戦に當りては帝國は遠く  
 交戦の地域を離れ直接の害毒を被ること少しと雖も戦後  
 の競争に關しては直接に波瀾を被り此間若し一步を誤ら  
 ば邦家千載の悔と可相成實に不易時期と相考られ候  
 近世帝國が列強と交渉を有するに至りたる以來五六十年  
 間の事を追懐するに非常なる難局に遭遇せし事一再なら  
 ず今日より之を想ふだに尙心膽の寒さを覺ゆる事も有之  
 此の間に處し幸に難局を披き國運の伸張を見たるは殆ん  
 ど天祐とも申すべく上に千古の聖帝を仰ぎ下忠誠の國民  
 あり幾多の賢宰良將籌謀宜しきを得相竣て此に至りたる  
 は勿論ながら又當時帝國は列強の間に伍し其の地位必し  
 も今日の如く重要ならざりしにも因るべく候然るに今日  
 に至りては帝國は事實上列強と伍を同くするに至りたる  
 のみならず今後列強が東亞の天地に覇を争ふに當りては  
 帝國は彼等の爲に重大なる競争者にして又當路の大障害  
 なれば事に當りて困難を感ずるの度も昔日に比し幾層倍  
 するは明かなるべく候高木風に當るの喩への如く帝國の  
 地位は戦後に起るべき大颶風の衝に當る高樓とも申すべ  
 く基礎梁棟は勿論戸障子の末に至るまで寸分の弛み無き

に非れば能く此の大風を凌ぎて全きを保つ事能はざるべ  
 く之を想へば日夜沈憂に堪へざる次第に有之候此の來る  
 べき狂風怒濤の日に帝國の運命を托するものは實に帝國  
 青年の外他に在るべからず候  
 如御承知今日に於て國運の進展は一二宰相の指導にのみ  
 依るべからず又單に陸海の兵力にのみ頼るべからず國民  
 を擧げ國力を盡し所謂上下一統舉國一致の力に倚らざる  
 べからず精神上將た物質上各種の方面に青年努力の要は  
 益々重大に有之候此の意義に於て老生は各地に青年團設  
 置せられ修養に従ふを喜ぶと共に又益々改善進歩して眞  
 に國家に資する所あらん事を希ふ所以に有之候  
 殊に防長二州は古來勤王の歴史を以て一貫し又近く四境  
 に敵を受け上下死を決し苦心慘澹王事を盡したるの事實  
 も有之候得ば其の青年は父祖の遺烈に顧みても卒先して  
 將來帝國擁護の責に任するは正に其の所と存候貴下恰も  
 此の時勢に際し牧民の官として指導誘掖の事に當られ熱  
 心從事せらるるを聞き欣喜の情に堪ず偏に成果を擧げら  
 れん事を切望致候之れ當に老生が郷土のためにする私情  
 のみにあらざ實は帝國一般の前途のために己み難きの宿  
 願に有之候老生齡既に八十を超へ今後帝國のために盡す  
 の餘命幾何も無之只々將來ある青年に帝國の前途を依頼

するの外無之候老生の眞意御推察被下度候 草々敬具

公爵 山縣有朋

山縣公の書簡を拜誦し  
 敢て二州の青年に檄す

阿武郡長 岡村勇二

客年八月林前知事は戦後準備の對策實行を期せんとし周到なる調査研究を  
 重ね戦後共働入大事項を掲げて訓令を發し越えて九月縣下各階級に屬する  
 人士千六百餘名を山口に集め更に熱烈なる訓示を與へ併せて朝野名士の訓  
 切ふる講演を聴取せしめられたるは眞に縣民覺醒の警鐘にして空前の壯舉  
 ふりき就中青年團の指導及び補習教育の改善ご公有林野の整理ごは寔に共  
 働事項中の大眼目にして更に青年團の改組は全國中他府縣に未嘗て見ざる  
 の英斷にして毅然二十歳打切の修養機關たらしめしは其先見の明なるに感  
 奮せずんばあらず爾來縣下二百二十五の町村青年團は影の形に映じ響の音  
 に應ずるが如く起り今や悉く其改組を了せりご聞く寔に本縣の幸福のみな  
 らず實に國家の慶事ふりごいふべし而して此青年團員は悉く相携へて實業  
 補習學校に就學し智徳の研磨に休力の鍛練に只管修養に努めつゝあり未だ  
 義務教育を入ヶ年に及ぼすご能はざる我國の現状に六ヶ年義務教育入ヶ  
 年の補習教育を准義務的に施さんとすの懸勢ごなれるもの全く林前令尹  
 の恩恵ふり此時に際し廟堂の元勳山縣公が林前令尹に致せる書簡の公に  
 せられたるものあり公爵の郷土にありし少壯時の情況を叙することは今暫  
 く之を略するも其明治維新の大業を翼賛し帝國をして世界列強の中に嶄然  
 たらしめし功勳は三尺の童子も克く知悉せる所なり壽齡八旬を超え尙思を  
 帝國の將來に致し無治施政の機宜に適せるを發し字々至誠に出で匂々肺腑

を貫ける本月十四日防長紙上の書簡は誠に千古の金言にして二州青年の熱  
 誠吟誦して誰か感激奮起せざるものあらんや余や嘗て此書あるを聞き豈  
 の感切なるものあり今卒然防長子の紹介を得一讀再讀老公の國を思ふの至  
 情難を受するの温誼誠に感銘措く能はざるものあり閣下の青年に囑せらる  
 るご此の如く郷土を憶はるご此の如き二州青年たるもの何ぞ他州に  
 卒先して帝國擁護の責に任せざるべき我郡各町村亦幸に青年團の改組を終  
 り實業補習學校の改正をも了するを得たり是れ全く林前令尹指導の賜に基  
 せずんばあらず希くは道般老公書簡の公表により益郡内青年の元氣を作興  
 し縣下各郡のそれご相俱に帝國國民の責務を盡さしめんごを而して右書  
 簡は此際石版印刷に附し縣下各青年團員に配附して修養の規範たらしめん  
 ごを切望して止まざる也

今や世界の動亂方に酷ふして老公の所謂颶風襲來の期刻々に迫れるものあ  
 るを覺ゆ客臘田中參謀次長は極東の一大危機ご題し露伊阿國の機情及び佛  
 國の榮張を説きて我國民の惰眠を警醒し其躍起を激動せらるる所あり今又  
 更に山縣老公の高誼を拜し二州青年諸君ご益握手を堅くして共働戮力せざ  
 るべからざるの念禁するご能はず余や頃日萩町川島に於ける公爵生誕地  
 修養の車に與り日々公の壽像を仰ぎ感奮益深きものあり敢て所懐を述べて  
 二州青年に檄す希くは俱に共に兩閣下の教訓を銘して愈奮勵力行邦家の爲  
 に盡すごころあらんごを

庶務

篤行者表彰

二月十一日紀元節の佳辰を下し篤行者並教育、自治、衛生功績者の表彰式本

縣廳に於て舉行せられたり就中本郡内の表彰せられたるもの、表彰文及事績の概要左の如し

表彰狀

阿武郡萩町平民 藤井仁三郎  
資性温厚ニシテ篤實嘉永六年齡十二歳ニシテ藥種商行本善兵衛ノ店員ト爲リ恪勤精勵實ニ六十有六年ノ間一日ノ如ク主家三代ニ亘リテ克ク家政ヲ補助ス其ノ志操洵ニ奇特トス依テ木杯一組ヲ授與シ其ノ善行ヲ表彰ス  
大正七年二月十一日

山口縣知事正五位勳三等 中川 望  
事蹟ノ概要

阿武郡萩町平民

藤井仁三郎

天保十三年一月二十四日生

資性温厚ニシテ篤實阿武郡大井村ニ生ル嘉永六年齡十二歳ニシテ萩町藥種商行本善兵衛ニ備ハル仁三郎年少ノ身ヲ以テ勤勉店主深ク之ヲ愛シ撫育スルコト實子ノ如シ偶々明治九年前原一誠ノ亂ニ際シ萩橋本町一團兵燹ニ罹ル主家亦類焼ノ厄ヲ蒙ル家道具ハ勿論商品全部ヲ焼失シ一時頗ル困憊其ノ極ニ達シ將ニ一家離散セムトス仁三郎干

條例許可

大正七年二月二十八日

福川村基本財産蓄積條例改正條例

大正七年二月廿八日  
同年 同月 同日  
同年 同月 同日  
同年 同月 同日  
同年 同月 同日

大井村村基本財産蓄積條例改正條例  
大井村小學校基本財産蓄積條例改正條例  
大井村督促及納付命令手数料ニ關スル條例  
奈古村基本財産蓄積條例改正條例  
奈古村小學校基本財産蓄積條例改正條例

報 德 美 談

三見村字飯井河村竹一(三十五才)ハ相當資産ヲ有シ一家圓滿ニシテ農業ニ勉勵ス竹一ニ一人ノ弟アリ養子トシテ他家ニ遣ハスヲ快シトセス當分職業ニ精勵熱達セシメ且相當貯蓄ヲ得セシムル目的ヲ以テ妻ヲ迎ヘテ同棲セルガ一家團樂和氣霽々常ニ郷黨ノ羨望スル所タリ竹一元來堅實ナル頭腦ト進歩的ノ思想トヲ有シ常ニ自己ノ改善修養ヲ怠ラズ言行共ニ篤實ナリ推サレテ地方改善、産業發達ノ事ニ力ヲ致ス等地方ノ中堅人物タリ從テ善行美談ノ稱スヘキモノ多ク就中竹一ト同部落ニ柚ト竹細工ヲ職業ト

時歳三十五至誠以テ主人善兵衛ヲ補佐シ内ハ資金ノ調達ニ努メ外ハ販路ノ擴張ニ腐必スル等専ラ之レカ恢復ニ力ヲ致シシカハ期年ナラスシテ家運ノ恢復ヲ見ルニ至レリ善兵衛ノ歿後嗣子道藏ニ任フルコト舊ノ如ク益々信用ヲ得タリ而シテ道藏逝キ現主善次郎繼クヤ年少ニシテ商事ニ慣レテ故ニ凡テ商事ヲ仁三郎ニ委ス仁三郎益々精勵以テ店務ニ執掌シ客ニ接スルニ温容ニシテ懇切頗ル里人ノ信用ヲ博シ店頭日々賑殷商運愈々擧ル善次郎長シテ區長、町會議員等ノ公職ニ膺リ深ク商事ヲ顧ミル能ハスト雖トモ家運益々隆昌ナルハ仁三郎ノ忠勤ニ依ルモノ寔ニ多シ而シテ仁三郎ハ論既ニ古稀ヲ過クルモ尙矍鑠トシテ通勤シ自家ヲ顧ミルノ暇ナク主家ヲ思フノ情益々切ナルモノアリ家ニ長男喜作夫婦及一孫アリテ家庭圓滿ナリ如斯六十有六年終始一日ノ如ク三代ノ店主ニ仕事シテ恪勤精勵其ノ志操洵ニ奇特ノ者ナリト茲ニ木杯一組ヲ授與シテ其ノ善行ヲ表彰ス

セル原田龜松ナルモノアリ多クノ子供ヲ有シ妻亦久シク病床ノ人トナリ貧苦日々ニ加ハリ生計ニ窮スルニ至レリ折柄妻ハ藥石其効ヲ奏セス遂ニ死去シ長男吉藏亦徵兵ニ合格シ入營スル身トナレリ茲ニ於テ部落ノ有志者ハ種々之レカ救助ノ道ヲ講セリ竹一亦其中堅トナリ大ニ努ム時ニ大正四年龜松ハ其長男吉藏ノ入營後勤ムルモノアリテ一家學テ厚狹郡地方へ出稼ノ身トハナリス早クモ大正六年ノ十一月トナリ吉藏ハ歸休兵トシテ歸郷ヲ命セラレタルモ一家出稼ノ爲メニ錦ヲ飾ル故郷懷カシサテ語ル家庭トテモナク同部落同期ノ歸休兵等潛ニ同情セサルハナシ此時ニ當リ竹一ハ奮然感スル所アリ家族ニ向ツテ曰ク兵役ハ國民ノ義務ニシテ隣保團結ハ町村民ノ義務ナリ今ヤ吉藏ハ國民ノ義務ヲ盡シテ歸郷セントスルニ當リ家庭ノ情况斯ノ如ク只管同情ニ堪ヘサルノミナラス殊ニ吉藏及父龜松ト共ニ元自家ノ小作者且傭人ナリ其關係管ナラス殊ニ任意ノ出稼ト云ヘ龜松一家今日ノ離散ヲ來サシメタルハ甚ダ以テ相濟マサル次第ニシテ現情傍觀スルニ忍ヒス此際龜松ノ所在ヲ搜索シテ招喚シ一家ヲ構ヘシメ吉藏ノ歸郷ヲ迎ヘシメントス然ルニ本件ニ付家内一人ノ不平

アリテハ心外ナリ依テ一同ノ意嚮ヲ開カント竹一ノ提議  
元來人道ノ模範タリ一家素ヨリ不平ヲ抱クモノ無ク直ニ  
議一決シテ八方ニ手ヲ盡シ漸ク龜松ノ所在ヲ探知シ旅費  
ヲ送ツテ歸郷セシメ自家舊宅ヲ龜松ノ住家ニ當テ家具一  
切ヲ貸與シテ茲ニ吉藏ノ歸休ヲ迎ヘシム原田一家ノ喜悅  
例フル物ナク吉藏歸宅ノ利那ニ於ケル感涙ノ一滴ハ見ル  
人ヲシテ袖ヲ濡サシメタリ其後竹一不斷ノ親情ハ深ク原  
田一家ヲシテ奮起セシメ能ク家業精勵ノ基ヲ築クニ至レ  
リ人アリ竹一ニ謝辭ヲ陳スレバ答ヘテ曰ク私ノ一家ハ報  
徳會員ナリ只報徳ノ實行ヲ期セントスルニ止マレルノミ  
ニテ他聞ハ大ニ耻ル所ナリト以テ其性格ノ一端ヲ知ルベ  
シ善事ハ正理ヨリモ其感動ヲ及ボスノ範圍大ナリトハ眞  
ニ之ヲ謂フ乎

◎ 産 業

畜産業功勞者に對し岡村本郡長より金拾圓を交付し之を表彰せり其表彰文  
及事蹟左の如し

表 彰 狀

(各通) 見島村 田畑由松  
同 長谷川幸之丞  
穩健着實ノ思想ヲ以テ多年畜産業ニ從事シ今回極メテ優  
良ノ仔牛ヲ生産シ得ルニ至リタルハ洵ニ功蹟顯著ナリト  
ス依テ金拾圓ヲ贈リ茲ニ其ノ功勞ヲ表彰ス  
大正七年三月一日

事 蹟

山口縣阿武郡長正七位勳六等岡村勇一  
阿武郡見島村 田畑由松  
同郡同村 長谷川幸之丞  
世々農業ヲ營ミ常ニ牝牛ヲ飼養シ使役ノ傍ラ産牛ヲナシ  
今日ニ至ル最近十ヶ年間に於テ仔牛十三頭ヲ生産シ價格參百四  
百八拾八圓(長谷川幸之丞)ヲ得タリ而レテ平素斯業ニ對シ頗  
ル熱心ニシテ好個ノ範ヲ示シ又本年品評會ニ於テ優賞ヲ  
得タル等功勞多大ナリ殊ニ本年受賞ノ牝牛ハ体格資質共  
ニ優良ナリ

◎ 兵 事

□ 海軍志願兵検査成績

本年徵募の海軍志願兵身体検査は客月二十三日及十五  
日の三日間に施行せられたり本年は各郡とも志願者減少  
し本郡又前年に比し十二名を減少せり然れども各村に於  
ける青年補習教育と体育向上の結果合格者昨年比し多  
數なりしは大に意を強ふる所なり今本縣下各郡の成績  
及郡内各町村別成績を摘録して參考に供す  
(參考資料参照)

□ 軍事講話状況

二月十九日秋明倫小學校講堂に於て歩兵第二十一旅團長  
濱面少將の軍事講話を施行聴講者は學生在郷軍人青壯年  
團員一般有志學生等無慮二千三百餘將軍が現下の時局に  
付又將來青壯年團員の覺悟に付尤も熱心に有益なる講話  
せられたるに前日來突然の降雪あり山口萩間の交通斷絶  
せるに際し徒歩尺餘の雪を踏んで來萩せられたること誠  
に感謝に堪へざる所なり

◎ 辭 令

□ 町村吏員異動

大正七年三月七日就職 明木村収入役 中谷秀作 再選

□ 小學校教員異動

增 俸	辭令月日	增俸	前俸	校名	職名	氏名
	二月十八日	拾圓	九圓	奈古	准訓導	福間義雄

退 職

辭令月日	退職事由	校名	職名	氏名
二月十八日	ノ一身合	奈古	准訓導	福間義雄

二月廿八日 一身ノ都合 見島 准訓導 河内壽之助

□ 實業補習學校教員異動

新任

任命月日	校名	職名	氏名
大正七年 二月十八日	椿東	訓導	大谷 榮 穂

- 一、人は入たるの品位を進め、智徳を研ぎ、ますく其の光輝を發揚するを以て本分となさるべからず、吾黨の男女は獨立自尊の主義を以て終身處世の要領とし之を服膺して、人たるの本分を全うすべきものなり。
- 二、心身の獨立を全うし、自から其身を尊重して、人たるの品位を辱かしめざるもの、之を獨立自尊といふ
- 三、自ら勞して自ら食ふは、人生獨立の本源なり、獨立自尊の人は、自勞自活の人ならざるべからず。
- 四、身體を大切にし、健康を保つは、人間生々の道に缺くべからざるの要務なり。
- 五、天壽を全うするは、人の本分を盡すものなり、原因

事情の如何を問はず、自から生命を害するは、獨立自尊の旨に反する背理卑怯の行爲にして、最も賤むべき所なり。

- 六、敢爲活潑堅忍不屈の精神を以てするにあらざれば、獨立自尊の主義を實にするを得ず、人は進取確守の勇氣を缺くべからず。
- 七、獨立自尊の人は、一身の進退方向を他に依頼せずして、自ら思慮判斷するの智力を具へざるべからず。
- 八、男尊女卑は野蠻の陋習なり、文明の男女は同等同位、互に相敬愛して、獨立自尊を全からしむべし以下略
- 一、忠孝を重んずべし、神明を敬うべし。
- 二、皇室を尊ぶべし、本國を大切にすべし。
- 三、國法を守るべし、國益を圖るべし。
- 四、學問を勉むべし、身體を強健にすべし。
- 五、家業を勵むべし、節儉を守るべし。
- 六、家内和睦すべし、同郷相助くべし。
- 七、信義を守るべし、慈善を行ふべし。
- 八、人の害を爲すべからず、非道の財を貪るべからず。
- 九、酒色に溺るべからず、惡き風俗に染るべからず。
- 十、宗教を信するは自由なりといへども、本國の害となるべき宗教は信ぜべからず。

參 考 資 料

學 校 名	男	女	計	本 順	月	前	位
椿野	九九、〇八	九八、六〇	九八、八四		一		二
鈴川	九八、七三	九八、一〇	九八、四二		二		二
立野	九八、七九	九七、四六	九八、二二		三		一
大島	九八、六四	九七、八一	九八、二一		四		六
木間	九九、五〇	九六、五五	九七、七七		五		二
持坂	九七、三三	九八、〇四	九七、六二		六		一
野呂	九八、一二	九六、六五	九七、三一		七		一
嘉年	九七、三九	九六、五〇	九六、九五		八		二
宇田	九七、四四	九六、四〇	九六、九三		九		三
篠目	九六、五三	九七、四五	九六、八九		〇		三
篠生	九七、五六	九六、一一	九六、八二		一		四
上川	九六、九五	九六、三三	九六、七七		二		五
三見	九六、三九	九六、二七	九六、六三		三		五
長高	九六、三一	九六、八一	九六、五九		四		二
椿東	九六、三七	九六、五五	九六、四一		五		七
明木	九六、九六	九五、三九	九六、三八		六		〇
相島	九八、〇八	九五、八六	九六、三七		七		四
		九四、四一	九六、二七		八		八

一町村立尋常小學校兒童出席步合調查表

(大正七年二月分)

目 次

- 一、小學校兒童出席步合調查表
- 二、町村會議員及有權者調查表
- 三、町 村 吏 員 調 查 表
- 四、小學校兒童進學準備教育狀況調查表
- 五、田畑一反步當賣買價格府縣比較表
- 六、大正七年度海軍志願兵檢查成績表
- 七、海軍志願兵檢查成績郡市比較表
- 八、阿武郡海軍志願兵人員累年比較表

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
育英西	九九、六一	一〇〇、〇〇	九九、七五	一	二		二
高橋	九九、三三	九九、四八	九九、四一	二	三		九
德佐	九八、五五	一〇〇、〇〇	九八、九九	三	四		一
嘉年	九八、三一	九九、八一	九八、七九	四	五		七
椿東	九九、一三	九八、一九	九八、七八	五	六		五
地福	九六、〇四	九六、七九	九八、二二	六	七		七
明木	九七、八六	九九、〇一	九八、〇八	七	八		四
奈古	九七、六七	九八、三一	九七、九九	八	九		二
大井	九七、五二	九八、一九	九七、八六	九	一〇		一
計			九九、六〇				二六

町村立高等小學校兒童出席歩合調査表

(大正七年二月分)

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
半田	九六、三九	九五、八三	九六、一二	一九	二〇		三一
佐並	九六、三五	九五、三八	九五、八八	二〇	二一		一六
越濱	九五、〇二	九六、六二	九五、七四	二一	二二		九
高瀬	九四、二九	九六、六九	九五、四六	二二	二三		八
地福	九六、三九	九四、四四	九五、四〇	二三	二四		五
小川	九五、六九	九四、八七	九五、二八	二四	二五		三
明倫	九五、八三	九四、六一	九五、二五	二五	二六		〇
龜山	九五、九一	九三、八六	九五、〇一	二六	二七		一
大井	九六、六三	九三、三七	九四、九二	二七	二八		三
福川	九四、二〇	九五、〇一	九四、六一	二八	二九		〇
多磨	九五、〇一	九三、四六	九四、三一	二九	三〇		一
奈古	九五、二一	九二、九三	九四、〇五	三〇	三一		〇
德佐	九四、五九	九三、四六	九三、九七	三一	三二		二
紫福	九四、七〇	九二、四二	九三、六二	三二	三三		二
下川	九二、〇八	九四、五八	九三、三四	三三	三四		七
見島	九四、五八	九一、一三	九三、三一	三四	三五		二
白島	九三、八二	九二、一六	九三、〇五	三五	三六		三
川上	九三、八二	八九、九二	九一、九六	三六	三七		四
生目	九三、五一	九〇、二一	九一、八七	三七	三八		二
藏喜	九〇、九二	九一、一三	九一、〇一	三八			一
計			九一、〇一				四一

町村名	議員ノ定員	議員ノ現員	選舉權	有スル者	計
萩郷東分町	二四	二四	一九九	一、一八〇	一、三七九
椿郷分村	一八	一八	一四四	六二二	七六六
山田村	二二	二二	一〇二	四一三	五一五
三見村	二二	二二	五五	三六一	四一六
明水村	二二	二二	六四	二八三	三四七
佐々並村	二二	二二	六八	三一	三九九
川上村	二二	二二	一〇八	四七四	五八二
篠生村	二二	二二	五四	二八八	三四二
生雲村	二二	二二	四七	四八九	五三六
地福村	二二	二二	六五	三八五	四五〇
德佐村	一八	一八	八五	七三二	八一七
嘉年村	二二	二二	五九	二六八	三二七
高俣村	二二	二二	四六	二八三	三二九
吉部村	二二	二二	四六	三五二	三九八
福川村	二二	二二	一〇一	五四九	六五〇
紫福村	二二	二二	六九	三五九	四三八
大井村	二二	二二	五二	三四二	三九四

二、町村會議員及有權者調査表

(大正六年十二月末現在)

(五)

學校名	男	女	計	本順	月	前	位
三見	九七、八二	九六、八一	九七、五九	一	一	一	一八
篠生	九六、九〇	九七、三一	九七、二〇	二	二	二	八
紫福	九七、四二	九六、四八	九七、一〇	三	三	三	六
川上	九七、七七	九六、一二	九六、九四	四	四	四	五
明倫	九六、三二	九七、四四	九六、八六	五	五	五	五
宇田	九六、一二	九八、四二	九六、七八	六	六	六	一
佐並	九五、八二	九七、三九	九六、五八	七	七	七	二
彌富	九八、九九	九一、三〇	九六、五五	八	八	八	三
生雲	九五、二四	九七、一二	九五、九八	九	九	九	二
白水	九六、五二	九四、二五	九五、六五	一〇	一〇	一〇	〇
多磨	九五、〇一	九二、四六	九四、四五	一一	一一	一一	〇
大島	九四、七二	九二、一七	九四、〇九	一二	一二	一二	七
福川	九三、一三	九五、九七	九四、〇七	一三	一三	一三	〇
吉部	九三、四八	九三、六八	九三、五六	一四	一四	一四	三
小川	九七、六二	八三、七七	九二、五二	一五	一五	一五	三
見島	九五、四五	七五、〇〇	九二、一七	一六	一六	一六	三
福田	八九、一二	九八、五五	九一、三八	一七	一七	一七	四
本月郡平均	九六、七五	九六、八七	九六、七九	一八	一八	一八	四
前月郡平均	九六、一五	九四、七九	九五、六一	一九	一九	一九	四

(四)



町村名	議員ノ定員	議員ノ現員	選舉權		有スル者		計
			一	二	一	二	
奈古村	二	二	八二	五	五九	二	五九五
宇田郷村	二	二	六〇	二	二三八	二	二九八
福賀村	二	二	六八	三	三七三	二	四四一
須佐村	一	一	一三	五	五八二	一	六九五
彌富村	二	二	七七	三	三五〇	二	四二七
小川村	二	二	一五	六	六二二	二	七三七
田崎村	二	二	九八	四	四三四	二	五三二
六島村	二	二	五四	一	一四三	二	一九七
見島村	二	二	八六	二	二二二	二	三〇七
計	三五四	三五二	一一七一	一一、四〇六	一一、四〇六	一	一三、五七七

三、町村吏員調査表

(大正六年十二月末現在)

職名	人名	有給	支給料		最多額	最少額	平均額
			年	計額			
町村長	一	一	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇
町助役	一	一	二、五八四、〇〇〇	二、五八四、〇〇〇	二、五八四、〇〇〇	二、五八四、〇〇〇	二、五八四、〇〇〇
助役	二	二	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇
計	二	二	三、二一四、〇〇〇	三、二一四、〇〇〇	三、二一四、〇〇〇	三、二一四、〇〇〇	三、二一四、〇〇〇
町書記	一	一	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇
町書記	一	一	四、三〇、〇〇〇	四、三〇、〇〇〇	四、三〇、〇〇〇	四、三〇、〇〇〇	四、三〇、〇〇〇
計	二	二	二、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇
區長	一	一	二、一九二、六〇〇	二、一九二、六〇〇	二、一九二、六〇〇	二、一九二、六〇〇	二、一九二、六〇〇
區長代理者	三	三	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇
計	四	四	二、二八四、六〇〇	二、二八四、六〇〇	二、二八四、六〇〇	二、二八四、六〇〇	二、二八四、六〇〇
常設委員	一	一	八、八六〇	八、八六〇	八、八六〇	八、八六〇	八、八六〇
學務委員	一	一	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇
林野整理委員	一	一	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇
山林監守委員	一	一	三、七、五〇〇	三、七、五〇〇	三、七、五〇〇	三、七、五〇〇	三、七、五〇〇
計	四	四	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
副収入役	一	一	二、四〇、〇〇〇	二、四〇、〇〇〇	二、四〇、〇〇〇	二、四〇、〇〇〇	二、四〇、〇〇〇
収入役	一	一	四、一四〇、〇〇〇	四、一四〇、〇〇〇	四、一四〇、〇〇〇	四、一四〇、〇〇〇	四、一四〇、〇〇〇
計	二	二	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇
町書記	一	一	二、二六五、〇〇〇	二、二六五、〇〇〇	二、二六五、〇〇〇	二、二六五、〇〇〇	二、二六五、〇〇〇
町書記	一	一	一、〇八九、〇〇〇	一、〇八九、〇〇〇	一、〇八九、〇〇〇	一、〇八九、〇〇〇	一、〇八九、〇〇〇
計	二	二	三、三五四、〇〇〇	三、三五四、〇〇〇	三、三五四、〇〇〇	三、三五四、〇〇〇	三、三五四、〇〇〇
技手	一	一	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
雇手	一	一	一、〇五六、〇〇〇	一、〇五六、〇〇〇	一、〇五六、〇〇〇	一、〇五六、〇〇〇	一、〇五六、〇〇〇
書記	一	一	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇
計	三	三	三、九三二、〇〇〇	三、九三二、〇〇〇	三、九三二、〇〇〇	三、九三二、〇〇〇	三、九三二、〇〇〇
計	三	三	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇
計	三	三	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇

計前行ニ記載ノ数字ハ町村長、助役、収入役及其ノ他町村吏員ノ計ニシテ後行ハ常設委員、區長及區長代理者ノ計ナリ

町村名	學校名	開始年月日	教授學科	每週教授時數	志望學	校兒童數	商學學校其數	擔任者氏名
萩	明倫	大正六年十月七日	修身、國語、算術、地理、歷史	六	六一	二五	一	香川政一、上利祥介
東	越ヶ濱	大正六年一月九日	國語、算術、地理	六	一五	一	一	藤田宗亮、池田美成、永安豐、太坂本彌吉、三月石一
椿	西	大正六年十二月一日	國語、算術	一〇	二	一	一	大和春三、白神伸男、厚母清賢
山	白水	大正六年十一月一日	國語、算術	一〇	二	三	一	小柳京介、信國久堅
三	見	大正七年二月十五日	國語、算術	四	四	二	一	堀豐藏
明	木	大正六年十月一日	國語、算術、地理	九	三	二	一	内山勇熊、西村一平、坂本磯次
佐々並	長高	大正六年十二月一日	國語、算術、地理	六	一	四	一	溝部求治、伊藤金熊
川	高瀬	大正六年五月七日	算術、國語、地理	六	一	二	一	柴田武之丞、藤原政一
篠生	立野	大正六年九月一日	國語、算術、地理	三	一	一	一	山中光一

四、小學校兒童進學準備教育狀況

町村名	學校名	開始年月日	教授學科	每週教授時數	志望學	校兒童數	商學學校其數	擔任者氏名
生	藏目喜	大正七年二月十五日	國語、算術	六	一	一	一	田中千代一
地	福地	大正六年四月一日	國語、算術	三	一	一	一	山根岑三、中村敏磨
徳	佐徳	大正六年九月	國語、算術	四	一	一	一	玉井世履、澄川龍藏
嘉	年	大正七年二月一日	國語、算術	六	一	一	一	田村唯熊
高	高	大正七年二月一日	國語、算術	六	一	一	一	福江慶作
吉	吉	大正六年五月十五日	國語、算術、地理	六	一	一	一	二河野宗吉、大谷茂和
福	半	大正六年五月十五日	國語、算術、地理	六	一	一	一	内山芳忠
紫	紫	大正七年九月十日	國語、算術、地理	四	一	一	一	二岡了作、横山出
大	大	大正七年一月十五日	國語、算術	六	一	一	一	吉岡實亮、境半三
奈	奈	大正七年十二月十一日	國語、算術、裁縫	七	一	一	一	岡藤毛ト
宇	宇	大正六年十二月十一日	國語、算術、裁縫	七	一	一	一	四仁保義助、秋枝實冬
福	福	大正六年二月一日	國語、算術、地理	六	一	一	一	井町常三郎、金子茂人、志賀定彦、石橋銀万治、末田今治
須	須	大正六年五月一日	國語、算術、地理	二	一	一	一	石田義雄

町村名	種別	西區		志願者	不參者	受檢者	合格者	受檢者對合格者百分比	學力不適合者
		岡山縣	廣島縣						
萩	村	三田	廣島縣	七二	一	一	四	七五〇	一
椿	村	山田	廣島縣	六六	一	一	三	五〇〇	一
椿	村	山田	廣島縣	六六	一	一	三	六〇〇	一
明	村	三田	廣島縣	七六	一	一	五	八五〇	一
佐	村	並木	廣島縣	四七	一	一	二	五〇〇	一
川	村	上並	廣島縣	三四	一	一	二	六〇〇	一
生	村	生上	廣島縣	〇三	一	一	二	六六〇	一
篠	村	雲生	廣島縣	三〇	一	一	二	六六〇	一
地	村	福雲	廣島縣	四三	一	一	二	五〇〇	一

六、大正七年度海軍志願兵檢査成績表檢査場

二月十二、三日萩町  
全十五日地福村

(11)

町村名	種別	本州		開始年月日	教授學科	每週授時數	志望學校	兒童數	擔任者氏名
		府縣名	田						
彌富	校	府縣	上	大正六年十二月一日	國語、算術、地理、歷史、理科	五	三	一	大石新一、綿津經雄、岩城四郎
小川	校	府縣	上	大正六年十二月一日	國語、算術、地理、歷史、理科	五	三	一	大石新一、綿津經雄、岩城四郎
小川	校	府縣	上	大正六年十二月一日	國語、算術、地理、歷史、理科	五	三	一	大石新一、綿津經雄、岩城四郎
田方崎	校	府縣	上	大正六年十二月一日	國語、算術、地理、歷史、理科	五	三	一	大石新一、綿津經雄、岩城四郎
六島	校	府縣	上	大正六年十二月一日	國語、算術、地理、歷史、理科	五	三	一	大石新一、綿津經雄、岩城四郎
見島	校	府縣	上	大正六年十二月一日	國語、算術、地理、歷史、理科	五	三	一	大石新一、綿津經雄、岩城四郎

五、田畑一反步當賣買價格府縣比較表

大正六年十二月  
日本勸業銀行調

(10)

志願者數	種別	年	八、阿武郡海軍志願兵人員累年比較表											
			前計	下阿	大豐	美厚	吉佐	都熊	玖玳	大	郡市	名		
一〇六	年齡	四十年	一、八二	八六二	一〇一	一〇三	一〇四	一〇六	一〇八	一一〇	一一二	一一三	一一三	志願者數
三三		四十一年	五	四	〇	七	二	六	一	三	三	一	七	不參者
六		四十二年	一、二九	八三	一五	九	三	七	四	五	七	一	二	受檢者
七		四十三年	五	四	七	七	一	五	四	二	五	〇	三	合格者
一〇三		四十四年	五	四	七	七	一	五	四	二	五	〇	三	受檢者對
一六七		元	五	四	七	七	一	五	四	二	五	〇	三	百分檢
一四三		年二	四	六	〇	六	四	六	五	八	四	六	五	分格檢
六		年三	四	六	〇	六	四	六	五	八	四	六	五	比者對
一〇五		年四	一	〇	三	九	二	七	一	三	五	六	二	位順
二七		年五	八	二	八	一	八	四	三	八	四	二	八	上五十點以
一三		年六	?	八	三	六	一	八	四	三	八	四	二	平均
一〇一		年七	?	四	一	七	〇	三	三	二	三	三	七	ナリタルモ
		年	一	二	七	九	五	四	三	三	六	〇	二	順
			一	二	七	九	五	四	三	三	六	〇	二	位

(111)

町村名	種目	七、海軍志願兵檢查成績郡市比較表														
		合見	六田	小彌	須福	宇奈	大紫	福吉	高嘉	德	郡市					
計	島島	萬	田	川	富	佐	賀	鄉	古	井	福	川	部	侯	年	佐
一〇	一	一	三	三	一	五	一	三	四	六	一	七	三	一	四	一
七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	四	一	一	三	三	一	五	一	三	四	五	一	六	三	一	四
五	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	〇	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(112)

種別	年	合格者數	採用者數
	四十年	三	一四
	四十一年	七	九
	四十二年	二	七
	四十三年	四	六
	四十四年	三	一三
	元年	五	三〇
	二年	六	三
	三年	四	三
	四年	七	元
	五年	五	三
	六年	四	元
	七年	五	?

一 利益ガ愉快ヲ與フルハ損耗ガ共痛ヲ與フルホドニハアラズ

一 君子ノ道ハ淡ニシテ厭ハズ簡ニシテ文温ニシテ理ナリ

一 自愛ハ吾人ノ徳ヲ誇示スルト均シク亦吾人ノ過ヲモ誇示ス

一 生ハ是レ樂ニ非ズ衆共ノ集マル處死亦樂ニ非ズ衆憂乍チ迫ル

一 品行ノ端正信實ナルハ一種ノ財寶ニシテ金銀ヨリモ重シ

阿武郡報第二十號 大正七年三月十五日發行 ◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 ◎毎月一回十五日發行 一部代價 金拾錢